



医療を受ける側の覚悟が問われる

橋島 次郎

生命倫理政策研究会

Health care users should be prepared for making severe choices

Jiro Nudeshima

Bioethics Policy Study Group

日本でも新型コロナウイルスCOVID-19の感染爆発の危機に備えるため、関係各方面から様々な対応が出てきたが、2020年3月30日、「生命・医療倫理研究会」有志から、「COVID-19の感染爆発時における人工呼吸器の配分を判断するプロセスについての提言」なる文書が公表された¹⁾。この文書は、医療崩壊を防ぐため、人工呼吸器の使用について、対象患者を選別する必要があることを認め、その選別判断基準について倫理的に検討を加えたものである。

今般の新型コロナウイルス感染危機に際し、治療対象を選別する事態に直面しなければならないのは、非常に辛いことであるが、避けて通れない課題である。4月7日には政府が法に基づく緊急事態宣言を発出した。そうしたなか、上記研究会有志が提言を出されたことに対し、筆者は敬意を表するものである。

そのうえで、以下、提言内容について、さらに議論を進めるため、批判的検討を加えてみたい。

1) まず根本的な問題として、人工呼吸器の使用方針だけをとりあげるのは、不十分だといわざるをえない。

フランスでは3月中旬、全国紙フィガロに医療倫理学者が論説を出し、救える見込みのある患者を優先し、見込みのない患者の治療はあきらめるといふ決断に直面する事態になったことを訴えた²⁾。かの国の状況からして、然るべき警鐘だったと思う。

この論説が示しているように、直面すべき問題は「治療」全般であって、単に人工呼吸器の使用に限ったことではない。その点で、上記研究会の提言は、人工呼吸器という非常にわかりやすい課題に絞ったことで、問題の広がりを抑えてしまう、さらにいえば隠してしまう恐れはないだろうか。

人工呼吸器よりもっと稀少な人工心肺装置の使用は、さらに深刻な問題を提起する。こちらは、おそらくすでに現場でトリアージがなされているのではないかと思われるが、そこでどういう基準が採られているのか、明らかにしておくべきではないだろうか。

2) 上記提言は、この提言を用いて人工呼吸器使用対象の選別を行う場合は、「それぞれの病院の責任において行うこと」としている(文献1)、註4)。しかし、救命の見込みの有無などを基準に治療の優先順位を付けることについて、医療従事者だけにその責を負わせるのは不当である。医療を受ける側も含めた国民みなが、その選別の責任、覚悟を広く共有すべきである。そのために、関連学会および医療界は、社会全体に、開かれた議論をするよう提起すべきであり、国や地方自治体も、そうした公論の場を早急に設ける努力をするべきである。

3) 上記研究会の提言では、随所に、医療機関が外部の支援として「倫理コンサルテーション」を活用すべきである旨が表明されている。しかしこの語は日本の医療現場の現状においてなじみのあるものとはいえ、実績からして、質量ともに信頼性のある「倫理コンサルテーション」が行われる実現性はあるだろうか。また医療従事者および医療を受ける者が、そうした「倫理コンサルテーション」なるものの意義や意味を受け入れる素地はあるだろうか。

また、この提言メンバーのなかには、医療における「倫理コンサルテーション」を業として行う立場になると思われる者が含まれている。この点で、提言内容は、該当メンバーが利益相反を申告しなければならない性質のものではないだろうか。提言を出す側も、自らについて、研究・医療倫理の規範に十分配慮していただきたい。

4) 最後に、細かいが重要な問題を指摘しておきたい。上記提言6ページ、4の2では、人工呼吸器の使用の選別において、性別、人種、社会的地位などいくつか具体的な範疇を挙げて、それらに基づく差別は「絶対行ってはならない」としている。その差別禁止の要件に、入れて然るべきだと思われる「身体的・知的・精神的障害の有無」が入っていないのは、なぜだろうか。研究会有志の考えを伺いたい。

利益相反

本稿の内容について、著者には申告すべき相反利益はない。

(投稿日：2020年4月11日)

(Preprint, ver. 1.0 公表日：2020年4月23日)

(受理日：2020年5月26日)

(公表日：2020年6月15日)

文 献

- 1) Available at:
http://square.umin.ac.jp/biomedicalethics/activities/ventilator_allocation_recommendations.pdf.
- 2) Emmanuel Hirsch Covid-19: des choix éthiques redoutables attendent les équipes médicales Le Figaro.
<https://www.lefigaro.fr/vox/societe/covid-19-des-choix-ethiques-redoutables-attendent-les-equipes-medicales-20200316>.

Health care users should be prepared for making severe choices

Jiro Nudeshima

Bioethics Policy Study Group

Abstract

Facing the COVID-19 pandemic, a Japanese study group on bio-medical ethics issued a statement concerning patient selection in using a respirator. I would like to point out some discrepancies in this statement. First, patient selection should be considered not only when using a respirator, but in the treatment at large. Second, the responsibility of patient selection should be shared by the public, not by health care workers alone. Health care users should be prepared to make severe choices to prevent the breakdown of the health care system.

Rinsho Hyoka (Clinical Evaluation). 2020 ; 48(1) : 157-9.